

【高等学校部門 優秀賞】

## 私と「食」

飛鳥未来高等学校 1年 藤岡 希未

私は、小さな頃もしかしたら人より多く食、特に野菜や果物に触れてきたかもしれない。それはきっと畑を営んでいた母方の祖父母、そして積極的に色々なところへ連れていってくれた父方の祖父母のおかげだ。

私は二、三歳の頃から、野菜や果物の収穫を手伝ったり、お菓子作りをしたりと、様々な「食」に関する経験をさせてもらっていた。特に印象深いのは、母方の祖父がイチゴを作っていたことである。毎年のように収穫を手伝って、採りたてのイチゴをそのまま食べたり、その後の夕食のデザートに並んだり、食卓が赤く彩られる春を、無意識のうちに楽しみにしていたような気がする。

そしてもうひとつ、秋になると今度はサツマイモを収穫した。これも毎年恒例になっていたのだが、そのサツマイモで作る大学いもが格別に美味しいのだ。大きな皿にたくさん盛り付けられたそれは、絡められた餡が尖っていて口の中に入れると痛かったが、それも秋の良い思い出である。

だが、この体験はもうできない。何故なら、畑の主である祖父は二年前の一月に亡くなったからだ。普段は無口な人だったが、穏やかに見守ってくれた優しい祖父だった。そんな祖父が作ったからこそ、その優しい味の野菜や果物が出来たのだと思う。

今、畑は祖父の生前一緒に畑を守ってきた親戚が跡を継いでいる。私も時間がある時は手伝いに行こうと思う。

これまでも、これからも、祖父の食物に対する愛を忘れず、毎日生きていく。それが一番の祖父に対する恩返しだと考えている。